



第1151号
2010年1月31日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 英 久子

WEB: http://www.nskk.org/tokyo/index.htm E-MAIL: comm.tko@nskk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇2月の代禱・信施奉献先
▽「信教の自由」を抑圧されて
いる人々のため(2・11に近い
主日)▽ハンセン病問題啓発
の日(大斎節前主日の1週
前)▽東京教区神学生のため
(大斎節第1主日)▽聖公会生
野センターため(3・1に近い
主日)▽ぶどうのいえのため
▽平和を実現するキリスト者
ネットの働きのため▽聖公会
平和ネットワークのため

◆としえの平安

1月3日 石黒 直彦(70)
聖バルナバ
1月7日 安済 幸子(91)
聖愛
1月14日 町田 麻(96)
聖十字

今週・来週の予定

1月31日~2月13日

31(日) 顕現後第4主日
下町G教会協議会(神田)
被献日前の光の礼拝
(主教座)
2月
2(火) 被献日
3(水) エルサレム教区協働委員会
4(木) 下町G牧師協議会
6(土) エルサレム協働準備会3
7(日) 顕現後第5主日
9(火) 銀座朝禱会
人権委員会(聖バルナバ)
11(木) 日本聖公会組織成立記念日
12(金) 主教座聖堂活動委員会
広報委員会
13(土) 人権: 日の丸・君が代「祈
りの会」(聖バルナバ)

1月14日 岡田 菊枝(95)
聖愛
座。お話し未定。照会 ☎042
(796) 1498・世話人。
1月20日 野中八重子(87)
▽西新の会(第2・4火曜)
2月9日19時半||聖餐式(高
橋顕司祭)・23日10時半||聖
書の学び(関正勝司祭) 会場
||井草地域区民センター。照会
☎03(3951)5010・目
白聖公会。
1月21日 名和田 宏(84)
聖マーガレット
▽銀座朝禱会(第2・4火
曜) 2月9日・23日7時半、
喫茶室ルノアール・ニュー銀

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

昨年末、見知らぬ女性から教会に電話が
あり、毎日カラオケクラブに来ている○さ
んがしばらく来ない、○さんに何かあった
らここへ電話してくれと言われていたので
電話した、と連絡があった。
その後再び電話があり、○さ
んが街中で心筋梗塞を起こし
て緊急入院していた、と聞か
された。○さんは出会ってか
ら5年くらいになる元野宿者
である。色々なことがあった
が、何となく気が合い、お付
合いが続き、高齢ではあるが
生活保護でアパートでの自立
生活に成功した。
20代の頃の私は野宿者の人
達が大嫌いであった。どうしようもない人
たちだと思いい、彼らの生活態度、異臭、怖
さに彼らから目をそむけて通り過ぎる一人

《み手のなかで》

変えられてきたこと

であった。しかし、30代になって様々な要
因で母教会へまじめに通うようになり変化
し始めた。路上の人たちを見る目が変わ
り、気の毒と感じ、守るべき対象と感じ始
めた。さらに4代になって会社を退
職し、自分の不安定な生活の中で、
彼らと私は何も変わらない、と感じ
た。自らの置かれている状況が自分
の感覚に多大な影響を与えることに
気づかされた。
そして今、何かあったらここへ電
話して、と言われる関係が生まれて
いることに喜びを感じる。普段は会
うことも少ないが「何かあった」時
に思い出せる関係性に感謝する。神
さまのみ手の中で私自身が変わら
れ、○さんも変えられ、出会いが育まれて
いることに心から感謝する。
(東京聖マルチン教会牧師補)

植田仁太郎主教は1月16日から、都内の病院に入院されており、幸い経過は順調ですが、しばらくの間、静養が必要とされておられ、公務復帰まで時間がかかると考えられます。当面の間、日本聖公会法規第9条1項に基づき教区主教の仕事や管理主教职制でおこなうことになりました。管理主教には隣接教区の北関東教区主教・廣田勝一師父が1月20日付で植田主教より委嘱されました。(常置委員会)

◇新司祭誕生

昨日1月30日(土)に主教座聖堂で廣田勝一管理主教の司式により聖職按手式が行われ、卓志雄(タク・ジウン)師が司祭に叙任された。「次号で詳報」
 ◇教区教役者会10年度幹事(50音順) 倉澤一太郎聖職候補生・佐久間恵子執事・下条知加子聖職候補生・須賀義和司祭(長)・塚田重太郎聖職候補生。教役者聖餐式は3月までは第4水曜日に。

▽小冊子ハラスメントのない教会に向けて(加害者・被害者にならないために) 東京教区ハラスメント防止委員会から刊行され、「一読を…」との案内とともに配布されている(2月中に関連記事掲載予定)。

▽2月聖路加国際病院礼拝堂《夕の祈り》 3日(水) 18時半オルガン演奏に引き続き19時から。演奏者は岡本桃子。入場無料(会場献金)。

《今、この教会では…》

神田キリスト教会

世間に押し寄せる少子・高齢化の波。どの教会でも案じられているこの問題。神田では最近平均年齢が下がるという現象が発生しています。昨年の秋頃から20代が主日礼拝に見え始めるようになり、子どもを持つ親子が洗礼・堅信を受けられ、今春には赤ちゃんが与えられる喜ばしいことが続いています。元々、秋葉原という若者の多い街に位置する教会。秋のバザーにはガンダムを出品し呼び物とするなど、与えられたタラントを活かし、より一層幅広い年齢層の人が集まる下町・神田のイメージにふさわしい、益々活気ある教会にしていきたい。(沖田直哉)

【クローズアップ】 37 月島の将来ビジョン

銀座から車で10分もかからない、いわば東京のど真ん中「月島」に、教会(礼拝堂)は一つもない。しかも高層のマンションが、まるで筈のようにニョキニョキと増え、人口は急激に増加し続けている。

その地に月島聖公会が施設所、幼稚園、保育園を建てて宣教奉仕の働きを始めて一世紀。今、東京教区は、ここが宣教の新たな拠点になりうると判断し、1・2階の保育園と3階の教会・牧師館を合築する話が進んでいる。

月島聖公会は、戦後一貫して教会と保育園が車の両輪のよう

に共に働いてきたので、今後も子どもに焦点を絞った働きを大切にしたい。具体的に言えば、これまで教会を形成してきた信徒を中心に、礼拝とみ言葉の学びを深めながら、保育園事業を側面から支え、さらには卒園生やその親との交わりの場を教会内に創り、「沖繩子ども平和の旅」、「日韓子ども平和交流」、「フィリピンの珊瑚礁の島に於ける植林、子どもキャンプ」などを教区レベルで企画し、実行する。

その準備段階での学習や、実施のための様々な事柄は、教区内の多くの方々の協力を仰がねばならない。その過程の中で、大学生や熟年、パワーが加わって下さるよう呼びかけたい。私たちの力点は、

子どもにある。しかし子どもだけに限定する必要はない。上記の平和交流や植林キャンプは、大学生レベルの企画に抜ければ、多くの若者が教会に集うことになる。彼らの中の数%は、教会の未来のリーダーに成長してくれるよう祈りたい。

このように、月島聖公会は、開かれた教会となり、これまで教会に集わなかった信徒の子弟や、教会と無関係であった層の子ども、若者、地域の人々に仕える教会に成長したい。それが月島のビジョンである。新しい聖堂・牧師館が、そのような働きに用いられるならば幸いである。

月島聖公会管理牧師

司祭 神崎雄二